

## 1 学校教育目標

## 【教育目標】

校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性とを備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成を目指す。

- ・知・徳・体のバランスの取れた人間形成をベースに据えつつ生徒一人ひとりの進路実現を目標に教育活動を推進する。
- ・3年間を見通した教育活動を推進するために、全教職員で協働して取り組んでいく体制の強化を図る。

## 【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

## 【30年度重点目標】

- ① 学校運営：教職員の協働体制を強化し、学校力を高め、家庭及び地域・関係機関と連携の下、「信頼される学校」づくりを目指す。
- ② 学習指導：3年間を見通した系統的・組織的な学習指導により、更なる学力の向上を図る。
- ③ 生徒指導：自主・自律の校風を尊重しつつ、規範意識を高め、豊かな人間性を育てる。
- ④ 進路指導：3年間を見通した系統的・組織的な指導により希望進路の実現を図る。
- ⑤ 学科間連携：各学科それぞれの長をを活かし伸ばすとともに、学科間の連携により教育の質の向上を図る。

## 2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

## 【学校運営】

- ・各行事が円滑に遂行されるよう努力したい。
- ・校外研修は探究科での海外研修・国内研修、普通科でのスキー研修等の決定を行った。
- ・PTA会長、副会長をはじめ継続する役員も多いので連携して取り組んでいく。また、7月に高P連中四国大会が下関で開催され、協力して成功させることができた。
- ・新メール配信システムのより効果的な運用の検討や情報発信の内容・更新回数の改善を進めた。
- ・百周年記念事業の具体的な日程、事業内容の検討などを実行委員会の中で進めていった。

## 【学習指導】

- ・より多くの授業時数を確保するため、各教員からの授業変更依頼を7日前までにできるように徹底した。
- ・中学校から高校への滑らかな接続のため、引き続き入学当初の学習オリエンテーション等は実施するが、探究科の入学生もいるため、学習や課題研究への取組などを内容に含めていくことを検討した。
- ・3年2学期末考査以降の特別授業や特別課外・特別指導は学年と連携して、滑らかに実施できるよう支援した。
- ・今までどおり授業公開日や互見授業日を設定するとともに、教科内、教科外で気軽に授業見学などができるようにした。
- ・探究科設置により編成した教育課程について再検討し、より良い教育課程の編成に努めた。
- ・初期指導の観点から生徒の自主的な学習活動を支援する取組を行いたい。具体的には学習内容と学習時間の調査を実施し、より良い学習習慣が身に付くよう指導した。
- ・引き続き情報部と連携して専任の係を設け、システムの改善だけでなく、担当者の打合せをはじめ担任に周知できる体制を作った。
- ・各教科とも授業が中心であるが、1年次から継続している朝学(国・英・数・化など)や英語の小テストを実施した。
- ・週末課題について、一覧表にして生徒に配布する前に、学年の教科間で回覧などして調整した。
- ・習熟度別で実施している授業があるが、早朝や放課後課外についても学力差を考慮し、グループに分けるなどして実施した。
- ・クラスや学年集会などをとおして受験についてできるだけ早く意識付けをさせることで、早朝課外や放課後課外の更なる活用を促した。

## 【生徒指導】

- ・頭髪・服装検査はある程度の成果があり引き続き実施した。、個々の場面で指導の徹底を図るとともに、月2回の登校指導により、挨拶やマナー意識向上を図った。
- ・「いじめアンケート」については計画的に且つ必要に応じて実施する。未然防止については、全校終礼等を通じて指導するとともに教職員全体で取り組んでいく。また、担任・学年主任・教育相談との連携を密に取り、早期発見・早期解決に取り組んだ。
- ・防災・防犯訓練や交通安全についてはLHR計画に従って実施するとともに、実施方法の改善等を含め検討した。
- ・教育相談部との連携も引き続き行った。
- ・個人面談や直接担任や副担任に言ってくる内容、教育相談部との面談内容等について、教員間の連携を密にして早めの対応を心掛けた。
- ・昨年度に引き続き、職朝後すぐにクラスに行き、朝のHR前に生徒の様子を把握したり、生徒と話ができるように心掛けた。

## 【進路指導】

- ・NCA(総合的な学習)の時間の年間指導計画の見直しをした。
- ・進学意識を早期から高めるためにオープンキャンパスへの参加を2年生だけでなく、1年生にも呼びかけた。
- ・保護者向けの進路講演会や情報交換会の実施を検討した。
- ・生徒の主体的な進路選択を促すために副総務(総合係)による進路委員会を実施し、大学・職業調べや進路だよりの発行を行った。
- ・生徒が気軽に進路相談ができるようなシステム作りを検討した。
- ・進路意識は持っていないもなかなか具体的な取組となつて現れない生徒は、個人面談の時間や回数を増やすようにする。また、時には進路指導部や副担任、教科担当と連携を取って面談等を行った。
- ・3年生になると、生徒の状況は個々に違っているので、進路検討会での内容を個人面談等で伝え、うまくいっている点や不足している点を確認しながら進めた。
- ・昨年度は、センター試験後に来なくなる生徒は少なく、2月特別課外にも多くの生徒が参加したことは良かったと思うが、もっと早い時期からの取組ができていれば、今以上の結果を残せたと思う。

## 【教育相談】

- ・状況が深刻になってからでは対策が難しいので、学年との連携をより一層密にし、支援を要する生徒の早期発見に努めた。
- ・生徒実態調査や心理検査の結果について、全体像を学年に報告するとともに、気になる生徒については担任と協力し、継続的に注視した。
- ・教育相談的なレベルを超え、医師やSCと連携しての専門的な助言を受けるケースが増加した。
- ・支援を要する生徒を、今まで以上にSCにつなげるように積極的に働きかけた。
- ・教育映像以外の人権教育の教材を広く研究し、効果的な人権教育が実施できるように努めた。

## 【健康安全】

- ・学校関係者評価でも指摘のとおり、優先すべきは「生徒の安全」である。そのためには、学校環境等のハード面の整備と、ソフト面である生徒自身の意識改革を更に進めたい。
- ・環境美化については、引き続きクリーン作戦を通じて意識の向上に努めるほか、ゴミ分別や個人ゴミの持ち帰りについては、家庭にも呼びかけた。
- ・昨年度同様、校内救急対応マニュアルの更新と、全ての関係者が同様の対応ができるよう研修の場を提供した。
- ・引き続き、体育的行事に関わる分掌と連携を密にし、行事目標の達成を図った。

## 【理数科・探究科】

- ・実施時期が固定化している科学オリンピックや科学の甲子園の参加募集開始時期を早め、参加者の増大を目指した。
- ・体験学習は訪問先との協議を丁寧に行い、内容の充実を図った。
- ・情報発信の担当割を明確にし、ホームページやブログの更新頻度を上げた。
- ・担当者間で意思疎通を図りながら、基礎探究を円滑に運営し、発展探究を計画した。
- ・探究活動に関する校内教員研修を企画した。

### 3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- 【学校運営】**
- ・校外研修は、探究科の海外研修・国内研修が初めての実施となるので、その成果を次に活かしていく。
  - ・PTA会長・副会長をはじめ、退任する役員も多いので新役員を円滑に決定し、連携して取り組んでいく。
  - ・進路情報交換会、PTA新聞や旭陵祭でのバザーなど昨年に引き続きPTAとの連携を深め、協力して進めていく。
  - ・緊急メール配信システムの全家庭の登録を目指す。更に多様な運用の可能性を探る。
  - ・ホームページの記載情報の内容・質・量について検討を進める。
  - ・百周年記念事業の具体的な事業内容の検討などを百周年記念事業等推進室に移管し進めていく。
- 【学習指導】**
- ・授業数確保のため、年間行事やその実施方法等の見直しを各分掌に要望していく。また、授業力向上のため、研修等を積極的に発信していくとともに、教育企画部や進路指導部と連携して取り組む。
  - ・生徒に興味・関心を持たせるような取組だけでなく、確かな学力を定着させるための計画を立てやすくする学習環境を作る。
  - ・大学入試の変更を受けて、進路指導部と連携して1年生の初期指導を含め、計画的な指導に取り組む。
  - ・探究科を含めた教育課程の評価を行う。学習環境を整えるため、継続して検討を行う。
  - ・成績管理システムの円滑な運用に向けて、改善等に取り組むとともに、教員の業務負担軽減のため、分掌としてフォローする体制を作る。
  - ・変更される生徒指導要録作成に向けて、早期に対応を考える。
  - ・基礎・基本を中心とした小テスト、朝学を行っていくとともに、成績上位者向けの課題等も行っていきよい。
  - ・自主自立の学習が西高の校風だが、生徒本人の自覚を待っている手遅れになるので、ある程度課題を与え、習熟度別に課外授業をする必要がある。
  - ・授業中心の学習と早朝・放課後課外、朝学の継続(リスニングも含む)、個別添削指導、志望校の科目に合わせたアラカルト講座等を引き続いて実施して大学入試の学力をつけさせる。
  - ・早朝・放課後課外では、生徒のレベルを考えてクラス分けをし、よりきめ細かな対応をしたい。
- 【生徒指導】**
- ・頭髪・服装検査については各学年の協力の下実施している。その場限りにならないように、平時から注意していくことが必要である。また、登校指導など教員から積極的に挨拶するなど行動していく必要がある。
  - ・いじめ防止に関して、未然防止・早期発見には学年・教育相談との連携が必要である。今までどおり連携を密にし、日々の生徒の活動に注意しておく。
  - ・防災・防犯訓練はより実践的に実施する。携帯電話の不正使用等規範意識の向上を図る必要がある。
  - ・不審者情報については、下関地区高等学校等生徒指導連絡協議会と連携し、速やかに生徒へ知らせ注意喚起するとともに、危機管理における自己防衛能力の向上を図る必要がある。
  - ・授業や部活動、校外研修等とおしてコミュニケーション能力を高める試みは引き続き重要であるとする。一方、友人関係、家庭の事情等により心に負担を感じている生徒がこれからも多数出ることが想定されるので、個人面談の機会を増やし、教育相談部と連携しながら対応していくことが重要である。
  - ・限られた準備期間の中で集中して旭陵祭や体育大会等に取り組み、最上級生としてリーダーシップが発揮できるように指導したい。
  - ・学校行事だけでなく、委員会活動や生徒会活動等でも積極的に動ける集団になるよう引き続いて支援する。
- 【進路指導】**
- ・NCA(総合的な学習)は、今後内容を精選し、生徒の更なる進路意識向上に役立てたい。
  - ・業務効率化、情報発信については、引き続き改善に努めたい。
  - ・大学セミナー(卒業生進路講話)を、現在の2年対象から1年対象に変更することで、早期の進路意識向上を図る。
  - ・研修についてはこれまで以上に機会均等に配慮し、旅費の適正な配分や復命の充実を努めたい。
  - ・進路講演会は、「何のために学ぶか」に主眼を置いた人選を行いたい。
  - ・自分たちが進んで行くゴールを見せるとともに、それを踏まえた3年間の見通しを理解させることで、生徒の学習の主体的な取組を促したい。
  - ・模擬試験(マーク式・記述式)については、実施後の「やり直し」の重要性を更に指導したい。
  - ・面談等を通じて、志望校のセンター試験と2次個別試験で必要な科目に向けての取組や準備の仕方を指導したい。
- 【教育相談】**
- ・支援を要する生徒を、早期に見極め、早目早目の対応により心掛けたい。そのために、教員間のネットワークを更に密にし情報収集に努めたい。
  - ・教育相談部連絡会で上がった生徒については、必ず担任に現況を確かめるようにしたい。
  - ・悩みを抱える生徒が、一人でも多くスクールカウンセラー(SC)に繋がるように認知度を高める工夫を考えたい。
  - ・多様な生徒に対応すべく、スクールカウンセラー(SC)に専門的な見地からのアドバイスを積極的に求めたい。
  - ・従来の枠にとらわれないこと、様々な人権課題や現代的な問題を取り上げたい。
- 【図書・情報】**
- ・図書委員の目による自主的な整理整頓・清掃活動を目指す。
  - ・調べ学習や読書の楽しみに資する選書を継続する。
  - ・図書だより・図書カレンダー・読書会を通じて読書活動を啓発・推進する。
  - ・図書室の自習室としての機能も尊重する。
  - ・今後も必要なプログラムの修正・改善を行っていく。
  - ・指示書も更に充実させ、より有効に活用できるように支援をする。
  - ・校内LANの運用について研究を継続する。
  - ・適宜情報を提供し、情報セキュリティの意識を更に高める。情報の保護には細心の注意を払う。
- 【健康安全】**
- ・保健整備委員からの啓蒙活動を推進する。
  - ・校内外の清掃活動の取組として、①全校掃除を、授業終了後に掃除、その後にSHRを実施することを定着させる。②美化美化(ピカピカ)作戦を継続実施する。③ゴミ減量化の取組を継続する。④ゴミ減量化と感染予防対策は、切り離して取り組む。
  - ・学校三師との連携、生徒の健康管理、校内の衛生管理については引き続き努める。特に、来年度は学校医の異動に伴い「報連相」の徹底を行う。
  - ・「校内救急対応マニュアル」と併せ、救急救命教職員講習会を再開する。
  - ・施設設備の充実・改善に向けて、「点検」「報連相」+「改善」までの流れの確立を目指す。
  - ・現在定期的に行っている部室点検に併せ、部活動で使用する施設設備の点検を依頼する。
- 【理数科・探究科】**
- ・2年次から人文社会科学と自然科学のコースの選択に対応する体験学習や探究活動の内容を企画・実施し、西高の新たな魅力づくりを推進する。
  - ・理数教育に関わる西高生の活動を速報的には学校ホームページ(HP)のブログで、定期的な活動報告は、紙媒体の探究科通信で行い、学校内外に本校の理数教育の取組について情報発信する。
  - ・学校の教育活動全体を見て、新たな取組を企画し検証を行っていく。
  - ・教員向けと生徒向けの研修をそれぞれ実施していく。

### 4 自己評価

### 5 学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。 ・校外研修の時期・内容を検討し、業者選定を円滑に行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・各行事とも円滑に準備・運営ができた。今後とも細心の注意を払っていきたい。 3: 取組は概ねできた。今年度の経験が次年度に活かしていきたい。	・各行事への準備は十分されている。体育大会・クラスマッチの運営に関する生徒意見は取り入れるべきである。	A
	保護者との連携促進	・PTA活動の活性化を図る。 ・新聞委員と連携し、PTA新聞の紙面の充実を図る。 ・情報部と連携し、ホームページから積極的に情報発信を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・会長の下で役員・会員が協力して活動を推進した。 ・PTA新聞編集委員会を7回開き、細部まで検討を重ねて新聞を発行した。 ・SS日関係の発信が多くなった。普段の姿を発信していきたい。	・保護者全般が学校に関わる機会が少ないので、保護者と連携する場を増やせば良いと思う。	A

学校運営	情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急メール配信システムを円滑に運用する。また、全員登録を目指す。</li> <li>ホームページ、ブログを活用して積極的に情報発信ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 入学時にメール受信登録をすることで登録状況はほぼ全員登録ができています。また、緊急連絡配信を多岐に活用できないか検討をしている。</li> <li>3: まだ改善点はあるが、ブログを中心に積極的に校内外での教育活動を発信している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 個人情報に配慮し、情報発信に留意している。</li> <li>緊急メール、HP等の情報発信は十分行われている。</li> </ul>
	百周年記念事業に向けた準備体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>百周年記念事業実行委員会と連携し、百周年記念事業推進室とともに記念事業の円滑な推進を図る。</li> <li>実行委員会、同窓会など関係機関と協力して記念事業等の具体化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 旭慶館(セミナーハウス)の建設も始まり、記念事業は順調に進んでいる。</li> <li>3: 今後は式典等の準備に注力することになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B: これからの取組に期待します。活動としてはOB会や教育会と連携して十分行われている。</li> </ul>
学習指導	授業時間の確保と適切な学習指導及び学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に向けて準備を行い、分掌等と連携しながら教育課程の作成に当たる。</li> <li>同時展開授業や振替授業が増加し、時間変更が難しい状況ではあるが、時間割係が可能な範囲で授業変更に取り組み、授業時間の確保に努める。また、臨時休業や学校行事等に対しては、分掌・学年と連携を取り、授業時間の確保について対応する。</li> <li>中学校から高校への滑らかな接続のため、中学校の研究授業への参加を促し、中高連携を推進する。新入生への指導に役立て、新入生に対しては、学習オリエンテーションなどを計画的に実施する。</li> <li>各学年と連携を取り、成績不振や学習に不安を抱える生徒に対してフォローしやすい環境を作る。</li> <li>3学年の2学期末考査後の授業や1学年・2学年の学年末考査後の授業編成を分掌や学年と連携して、計画的かつ円滑に行うとともに授業の充実や時間の確保に努める。</li> <li>教室内の机、椅子、ロッカー等の校内の整備を計画的に進めていく。</li> <li>教育の質の向上を図るため、研修等の案内を充実させ参加しやすい状況にしたり、情報や課題を共有して各教科、各学年の縦横の連携を図ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 平成34年度の実施に向けて、平成32年度までの教育課程完成に向けて、説明等を行っている。</li> <li>3: 同時展開授業や行事の増加のため授業変更による授業時間の確保が難しい状況であったが、時間割係が授業確保のため最善の努力をした。ただし、今後は更に探究科等の行事や特別授業が増加することが見込まれ、同程度の授業変更は難しくなることが予想されるため、行事等の見直しや実施の工夫が必要である。</li> <li>2: 中学校等の研究授業の案内をしている。業務等のため参加が難しい状況ではあるが、可能な範囲で参加されている。新入生に対する学習オリエンテーションは計画的に実施できた。</li> <li>1: 各学年が、定期考査前などで補講を計画的に実施された。基礎学力の定着のため、考査前だけでなく小テスト等の実施等計画的な指導が必要である。</li> <li>2: 学年末考査後の授業計画や3年2学期末考査後の特別編成授業について、学年と連携して円滑に実施することができた。</li> <li>3: 来年度以降に向けて分掌や学年からの情報を教員が共有できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B: 多岐に渡る様々な要求に立派に対応している。最後は生徒優先でお願いする。</li> <li>2: 平成34年度の新学習指導要領の導入に向けた準備が進んでいる。教育方針を「見えること」から「考えること」に転換する内容であり、今後はある分野に特化した人材が社会全体で求められることから、画一的な教育ではなく、個人々に合った教育が求められる。同じ内容の授業を全員にするのではなく、得意分野を伸ばす教育を考えてほしい。</li> </ul>
	探究科設置の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究科設置やSSH指定に伴い、教育企画部等と協力して、教科や分掌からの意見をまとめ、探究科・普通科により良い教育課程の編成等に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: SSHの指定により、探究科の教育課程は特別措置が取れることにより、基礎探究や発展探究は2単位となった。来年度の総合的な探究の時間では普通科にも探究活動を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 期待している。</li> <li>2: 研修等、探究科設置目的に合った活動を取り込んで工夫がされている。</li> </ul>
	3年間を見通した系統的・組織的な学習指導体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>『学び』について使えるアイテムや教材を開発・収集・管理し、教員や生徒が適宜使えるようにする。</li> <li>進路講演会を実施する。(6月&amp;2学期の計2回)</li> <li>教員の授業力を高めるため、研修への参加や他校との互見授業実施を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 他の方針や教科と連携してアイテムや教材の開発を進めることができた。</li> <li>3: 進路講演会は、2回とも生徒に大変好評で、進路意識の高揚に大きく寄与した。</li> <li>2: 多くの教員が積極的に研修へ参加した。他校との互見授業については、進路部としての取組が更に推進できるよう、工夫を重ねたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 体験的な学習や指導は十分できている。ただ、大学に入れることより将来どうあるべきかの指導がより大切である。</li> </ul>
	教務システムの円滑な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報部・進路指導部と連携して進めている教務システムの活用において、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等の定着のため、マニュアルの作成や改善に取り組み、教科担当及び担任の業務を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 情報部と連携してマニュアルも完成し、業務の支援は以前と比べかなり進んでいるが、更に一元化に向けて修正をすることで教員の理解・定着のため、各学年に成績処理や指導要録作成を中心に行う教務担当者を配置し業務の支援体制を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 準備は十分に進んでいる。システムの意図を運営する教員全体が理解しないと意味がない。</li> </ul>
	【1年】効率的な学習計画によって基本的な学習習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習記録表を提出させ、個人面談の資料の一つとして利用し、学習習慣を確立するよう支援する。</li> <li>基礎学力をつけるために、朝学を充実させ、小テストや週末課題などを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 学習記録表を用いて、生徒の学習の実態を把握して面談等において指導した。</li> <li>3: 朝学は1限目の授業にスムーズに入れるように注意を払っており、概ね良好である。2年次以降も引き続き継続していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B: 高校の学習するように十分指導している。</li> </ul>
	【2年】授業中心の学習と課外等による学力の養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中心の学習を支援し、学力の向上を図る。</li> <li>教科間での情報交換を密にし、課題の量を調整した上で出題する。</li> <li>早期課外、土曜講座や補講等を学力差も考慮して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: それぞれの教科の特色やその時の授業の目的に応じて授業形態を選択するなど、学習の効果が上がるように取り組んだ。</li> <li>3: 週末課題は教科間で量を調整できた。</li> <li>2: 各教科の実情を踏まえて、早期課外や土曜講座を実施できたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B: 週末課題について、教科間で量を調整できたことは評価できる。</li> </ul>
	【3年】大学受験を踏まえた授業内容の充実と課外等による確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を中心に、早期課外や部活動引退後の放課後課外、朝学、添削指導等で大学入試に対応できる学力を身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 例年と比べると課外受講者が減って少ない傾向にあった。2月特別課外・特別指導に至るまでの傾向は変わらなかった。受講者には十分な指導ができたが、受講者数を増やすための工夫が必要かもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B: 数値がわかれば記述をお願いしたい。</li> <li>2: 進学に向けての個人々の進路に合わせた学習をお願いする。</li> </ul>
	理数教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSHの研究開発課題である「生徒に科学的課題構想力を育む」ため、「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」等の授業を実施するとともに、発展探究においては主体的な探究活動などを行う工夫する。</li> <li>SSH事業においては、大学や企業などと連携した取組を充実させる。</li> <li>「やまぐちサイエンス・キャンプ」や「科学の甲子園」等の理数教育を深める事業への参加者を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 複数の教員が協力して行う「ユニットカリキュラム」18テーマや「リレー探究」2回を実施した。</li> <li>3: 探究科1年生と2年生が、それぞれ九州大学と広島大学で研修を実施し、充実した研究授業を見学した。また、企業や博物館と連携した研修も行った。</li> <li>2: 「やまぐちサイエンス・キャンプ」に3名「科学の甲子園山県大会」に18名が参加した。「科学の甲子園山県大会」は、科学部のチームが4位、探究科2年次生のチームが5位という結果だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 立派に頑張っている。</li> <li>2: 普通科の生徒にも参加のチャンスがあれば工夫してほしい。</li> <li>3: 研修等において、本来あるべき学ぶスタイルに向かっている、良いと思う。</li> </ul>
	探究科・理科科の情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>西高ブログを活用し、探究科・理科科や理数教育関係の取組等について情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 「SSH・探究News」を8回発行した。また、各種の取組をWEBページに掲載した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 通信の発行は大変ですが、8回はすごい！ブログの反響の記述をしてほしい。</li> </ul>
	探究科の取組の改善と次年度の企画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者間で意思疎通を図りながら、「基礎探究」や「発展探究」を円滑に運営するとともに、次年度から始まる「教科探究」や「課題研究」の内容について早期に立案する。</li> <li>体験学習の実施に向けて、電話・メール・文書で外部機関と緊密に連絡を取る。</li> <li>アドバンスセミナーについて1年生を対象とする講座の内容を充実させるとともに、本年度から始まる2年生を対象とする講座を円滑に実施する。</li> <li>「教科探究」や「発展探究」の指導内容を企画する。</li> <li>資格試験(英検)を円滑に実施し、英語スピーチコンテスト等の各種大会の応募を取りまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 「基礎探究」は2年目の実施となり、円滑に進めることができた。昨年度との変更点は、単位数を1単位から2単位に増やし、発表のまとめやICT機器を利用したデータ処理を行った。</li> <li>3: 探究科体験学習の案内を中学校に送付し、実施要項をWEBページに掲載した。</li> <li>2: アドバンスセミナーは2年目となり、円滑に実施することができた。</li> <li>1: 「教科探究」や「課題研究」の次年度の計画については、各教科との調整を行った。</li> <li>2: 英検などの資格試験は、年度末に実施予定であり、遺漏のないよう準備を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 現在、技術の進化が目覚ましくSociety5.0で発信される社会が、3〜5年後に訪れると思うので、よりITなどの時代に近づく研修を進めてほしい。</li> </ul>
情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会で探究科の特色を中学校の生徒・保護者・教員に伝える。</li> <li>探究科を紹介するリーフレットを充実させる。</li> <li>WEBページで生徒の活動や探究活動の様子を伝え、魅力を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 十分な取組ができた。</li> <li>3: 取組は概ねできた。</li> <li>2: 取組が低調であった。</li> <li>1: 全く取組めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4: 8月に「学校説明会」、10月に「探究科体験学習」を実施した。また、在校生と中学生の交流会は、探究科の様子を直接聞くことができたので大変好評であった。</li> <li>3: 「SSH・探究News」を8回発行した。様々な取組をWEBページに掲載した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 大変好評だったとあるが、根拠となるデータはあるか。</li> <li>2: 中学校や外部の連携をより強化してほしい。</li> </ul>	

	<p>・SHR、授業、全校終礼等をおして時間厳守の意識を徹底する。 ・教員の共通理解を図り、全校終礼で服装、髪型等の指導を行う。 ・全教員による月2回の登校指導を実施し、挨拶の習慣を身に付ける。 ・HRや全校集会等あらゆる機会を通じてマナー意識の向上を図る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・全校集会や始業式・終業式等では、生徒会が主体的に集合状況の把握を行い、時間厳守やマナー等に対する意識向上に努めた。 ・頭髪・服装検査や月2回の登校指導を計画どおり実施し、基本的な生活習慣の向上に努めた。 ・機会をとらえ、学校生活におけるマナーの向上を図り、HR等を通じて生徒への注意や働きかけを行った。</p>	<p>・西高らしい学校生活、マナーが取り組まれている。</p>	A
	<p>・年3回「いじめに関するアンケート調査」を実施し(教育相談部の生徒実態調査を含む)、実態把握に努め、学年・教育相談と連携し、未然防止・早期発見に努める。 また、年2回いじめ対策委員会を実施し、スクールカウンセラーやPTAなど外部との連携も強化する。 ・携帯電話、インターネットによる書き込み等の注意を喚起し、保護者・生徒向けのケイタイ安全教室を実施する。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・いじめを含め「いじめのアンケート調査」を行い、担任・学年や教育相談部と連携し、未然防止・早期発見や解決に向けて学校全体で取り組んだ。 ・予定どおり新1年生には仮入学時に保護者を含め「スマホ・ケイタイ安全教室」を実施した。また、生徒に対し、SNS等インターネットの書き込みによる問題に対して指導を行い、情報化社会における注意喚起を行った。</p>	<p>・いじめのない状態を継続するよう恒常的な取組をお願いする。 ・学校としては、十分に取り組んでいるが、スマホを利用した目に見えないいじめについて、より対策を考える必要がある。</p>	B
生徒指導	<p>・地震や不審者等を想定した防災避難訓練及び防犯避難訓練を実施する。 ・交通安全教室を実施し、交通マナーの向上に努める。 ・不審者情報などを速やかに生徒に知らせ、登下校時等の管理意識の向上を図るとともに、速やかな通報等その対応の指導を行う。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・計画どおり防災・防犯訓練を3回行い、緊急時における危機管理に対する意識の向上を図った。 ・今年度は交通安全教室を警察署にお願いし実施した。交通事故の悲惨さや、事故を起こした時の責任についてより具体的な事例を含めた指導を行った。 ・HRを通じて不審者情報等を生徒に連絡をし注意喚起している。また、自ら不審者に対しての危機管理の向上に努めた。</p>	<p>・防災訓練や不審者に関する情報発信など、十分に取り組まれている。</p>	A
	<p>・学校行事等とおして、生徒が他の生徒や教員と人間関係を築き、自己を成長させるよう促す。 ・教育相談部や関係教員と連携を取りながら、1学年団で生徒の問題解決を図る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・概ねうまく人間関係を築き、入学当初より成長した姿が見られる。 ・指導に慎重さが求められる生徒もいるが、関係教員との連携を密にして指導し、問題解決に努めている。</p>	<p>・入学当初より成長した姿とあるが、数値化して示されない。 ・先輩、後輩との人間関係を含めて、概ね良好である。</p>	B
	<p>・授業などの場で自分の意見を述べられるような雰囲気づくりに努める。 ・面談の機会を活用し、各々の生徒の問題点を早めに把握する。 ・適宜、始業前、昼休み、終礼後に教室に向い、個々の生徒と話を増やす。 ・校外学習の様々な場面を利用してコミュニケーションを十分に取るように指導する。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・授業においては、ペア学習、グループ学習等で自分の意見を述べる機会を多く取れたように思う。 ・面談では、十分に生徒とのコミュニケーションが取れていたように思う。 ・昼休み、放課後を問わず必要に応じて生徒と話を増やす機会を持っていた。 ・それぞれの行き先でそれぞれの研修先に応じた接し方ができたとの報告を受けている。</p>	<p>・授業では、自分の意見を述べる機会があり、先生が配慮している。ただ、生徒が間違いない意見を言う傾向がある(積極的な発言に繋がらない)。</p>	B
	<p>・学校行事は最上級生として下級生を引っ張っていける集団づくりを心掛ける。 ・学校行事だけでなく、日常生活や委員会活動・生徒会活動などでも積極的に動ける集団になるよう支援する。また、学年集会を開き、志を高く持たせたり、日常を振り返らせたりする機会を作る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・各学校行事でのリーダーシップはとれた。 ・学年集会を持って進路指導などの話をすると、集中してよく聞く、それが志の高さに結びついていると思うが、規律ある日常生活につながっているかは確かではない。</p>	<p>・体育大会、旭祭祭では、3年生が全体をよく引っ張っていた。</p>	B
生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実	<p>・生徒一人ひとりの能力や適性に合った適切な目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させる。 ・校外実施の職場体験学習や各種セミナーに、生徒を積極的に参加させる。 ・進路だけでなく、進路講演会により、進路指導の状況や大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。 ・NCAのカリキュラムの見直しを図るとともに、キャリアセミナーや出前講義などを充実させ、大学観・職業観の確立を図る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・面談などの個別指導は円滑に実施され、生徒の適切な目標設定の一助となっている。 ・職場体験学習は医療系を中心に多くの生徒が参加し、好評であった。夏休みのオープンキャンパスにも多くの参加があったが、課外と重複した際には課外を優先するよう、周知徹底を図りたい。 ・NCAは各学年とも概ね円滑に運営できたが、生徒の進路意識が更に高められるよう、教材等に工夫を重ねたい。 ・月1回の進路日発行や各種講話、資料配布などを通じて、適切な情報発信に努めた。</p>	<p>・目標設定、夢を大きく持って「天下第一関」を具現化してほしい。 ・生徒に合う合わない先生もいるので、個人的に合った先生が指導するとより効果が上がる。</p>	B
	<p>・進路指導において、担任により指導内容に個人差が出ないよう支援する。 ・進路検討会等により、進路部と学年団が連携して指導に当たる体制を作る。 ・多岐にわたる業務の精選を図るため、ICTの活用促進を検討する。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・進路検討会では、文理選択、科目選択、大学選択に関して、幅広く情報共有や情報交換を行うことにより、担任による指導の個人差を一定程度平準化することができた。 ・過去の担任業務で活用したデータやファイルをサーバー内で共有し、有効活用することにより、業務の円滑化を図ることができた。</p>	<p>・有効活用することによりとあるが、どのように有効活用するのか。 ・体系的な進路指導となっている。ただ、進路に違いがあり、個人差がある指導のほうが良いケースもある。</p>	A
進路指導	<p>・教員の授業力や進路指導における資質向上のため、予備校や大学での研修への参加を促すとともに、復命を適宜行うことで、全教員が情報を共有できるようにする。 ・各学力層に応じた指導が行えるよう、授業や課外等において各教科と連携を図る。 ・新たな教材の開発や活用を促し、教員や生徒が適宜利用できるようなる。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・キャリアセミナー、出前講義は例年どおり実施され、職業観の確立の一助となった。今後は新たな取組を模索したい。 ・医療体験や大学説明会等に多くの生徒が参加し、進路意識が向上した。 ・研修の復命は教員の多忙化もあり、十分に行われたとは言えない。復命のレポート化を各教員へこれまで以上に推奨したい。 ・進路指導室は例年並の活用状況だった。引き続き活用促進策を検討したい。 ・進路講話や講演会を充実させ、これまで以上に適性に応じた目標設定ができるようになった。</p>	<p>・キャリアセミナー、大学説明会等を通じて、将来の夢や希望を考えるきっかけ作りは十分に行われている。ただ、授業の際に、将来何の役に立つのかを説明しながら教えることが大事である。</p>	B
	<p>・個人面談や、NCAでの学部・学科研究、キャリアセミナーなどとおして進路に対する関心を高めるとともに、文理選択などの機会を利用して専門的な学習分野に関する知識を得る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・進路諸行事や学年全体の取組、文理選択を主とした面談(個人・三者)等とおして、将来の進路について意識や関心が高まってきた。</p>	<p>・今後に期待している。 ・将来の進路に向けた取組がされている。</p>	B
	<p>・面談の機会を利用して生徒の進路意識を把握し、適切な支援を行う。 ・志望校を明確にさせ、模試受験後における復習の重要性を繰り返し生徒に伝える。 ・大学セミナー、出前授業、東大見学会等の行事等とおして、校内での高い進路意識を共有させる。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・各担任とも十分に時間をかけて面談を行い、適切な支援を行うことができた。 ・また志望校を明確に決めることができていない生徒もいるので支援していく必要がある。 ・各行事のアンケート結果は、肯定的意見がほとんどだったので、所期の目的は果たされた。</p>	<p>・今後に期待している。 ・進路について十分に考える指導ができています。</p>	B
	<p>・模試を各自で分析し、自らの弱点を明確に把握させる。 ・面談等を利用して、志望校の科目確認と受験までの中長期的な見直しを立てさせ、夏休みまでに既習内容の復習や仕上げができるよう支援する。 ・2学期以降は大学入試センター試験と2次個別試験の内容へバランスよく対応させ、最後まで粘り強く取り組めるよう支援する。 ・各学力層に応じた学習方法改善や弱点の補強ができるよう、担任や教科担当との連携の充実を図る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>・規律ある生活を送る生徒達は、受験が近づいても落ち着いてしっかり学習していた。 ・数など学校外の受験産業に影響される生徒が一部にあり、学校としても、進路指導をより充実する必要があるとは言いえない。</p>	<p>・進路指導について、塾などに影響される生徒がいるとあるが、難しい問題である。 ・個に応じた進路指導の工夫をしてほしい。</p>	B

教育相談	教員間及び保護者との相互理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年団や養護教諭との情報交換を密にし、支援が必要な生徒の早期発見、早期対応に努める。</li> <li>「配慮を要する生徒」のファイルを活用し、関係教員で情報の共有を図り、状況を把握する。</li> <li>定期的に教育相談部連絡会を行うことで、気になる生徒について意見交換をし、支援の方法を検討する。</li> <li>生徒実態調査や心理検査の結果を分析し、担任と共有し、生徒理解に役立てる。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係教員間の情報共有や対応の連携はできた。</li> <li>教育相談部連絡会では、支援に資する多角的な情報共有と検討ができた。</li> <li>支援が必要な生徒が同時期に多数出たときには、対応がやや手薄になった。</li> <li>教育相談室登校の生徒のフォローの仕方を構築する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果にもあるように、高校は先生と保護者の接点が少ないので、例えば進路情報等を希望する保護者と一緒に集め、発信するなどの取組をしてはどうか。</li> </ul>	B
	スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な生徒に、スクールカウンセラーとの面談を勧めるとともに、その生徒の関係教員へのコンサルティングを積極的にお願いする。</li> <li>随時、スクールカウンセラーと事例検討を行い、教員のカウンセリングマインドの向上を図る。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCと当該生徒の担任または関係教員との綿密な情報共有が図られた。</li> <li>ケース会議に専門的な見地からの助言をいただく有意義な会議が持てた。</li> <li>SCを講師として教員研修会を実施し、生徒理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCは個人々々に向き合うのが上手なので、馴染めない生徒には非常に有効である。</li> </ul>	A
	豊かな人権感覚を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や時代背景に応じた幅広い人権課題に対応する。</li> <li>授業だけでなく、その他の全ての教育活動を通じて人権感覚を涵養するように留意する。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招き、幅広い分野にわたって人権意識を涵養できた。</li> <li>日常の学校生活での生徒間の人権意識が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権意識が向上したとあるが、検証データはあるのか。</li> </ul>	A
図書・情報	図書館の充実と読書指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動、図書当番など図書委員の主体性の養成と支援を行う。</li> <li>計画的・系統的に図書の充実を図り、書籍の購入を円滑に進める。</li> <li>読書会の開催や図書だよりの発行により、読書活動の啓発と普及を進める。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた仕事は着実にこなした。</li> <li>アンケート結果により図書を購入した。読書会における集団読書を円滑に実施できた。</li> <li>図書室を使い易くする計画を実行中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書会に強い期待を持っている。</li> </ul>	B
	成績処理等にかかわるシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績管理システムをより円滑に活用できるようにプログラムの修正・改善を随時行う。フォーマット改変に対する対応を進める。</li> <li>マニュアル等の一層の充実を図り、成績管理システムを上手く活用できるように各業務の支援をする。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績管理システムの更新・改善は随時行っている。今年度も円滑に運用できた。</li> <li>活用しやすいようにマニュアル等を提示・配布し、支障なく業務を支援できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使いやすいシステムになるように更新。改善をお願いする。</li> </ul>	A
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティを確保しつつ、使い易いシステム運用を進めていく。</li> <li>情報セキュリティ意識の向上のために、随時必要な研修会や情報提供を続けていく。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌等が利用しやすい環境を維持し工夫してきた。データの共有については改善の余地がある。</li> <li>セキュリティに付いての情報提供は適宜行い、今後も継続してセキュリティ意識の向上に取り組みなければならないと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティは日進月歩のウイルス対策が必要であるので、日常のモニタリングが必要である。</li> </ul>	A
健康安全	生徒と教職員との協同安全衛生管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から、生徒と教職員がそれぞれの立場で、危険箇所の確認を行い速やかに改善していく。</li> <li>生徒と教職員が共に清掃活動に取り組むとともに、清掃活動と保健整備委員会が行う清掃状況点検活動とをリンクさせる。(継続事項: 全員掃除)</li> <li>生徒指導部と連携し、LHR計画で校外の美化美化(ピカピカ)作戦を計画・実施する。</li> <li>生徒と教職員が協力し、清掃時のゴミ分別・私的なゴミの持ち帰りを徹底する。</li> <li>感染予防対策として、ティッシュ専用収集ボックスを活用する。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓の棧が掃除できていない所が多い(教室の外、廊下、特別教室棟廊下)。また、ゴミ分別・私的なゴミの持ち帰りについては、職員室があまりできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内美化の取組を継続してほしい。</li> <li>ゴミ処理の問題をここで取り上げるのはどうかと思えます。できて当然では?</li> </ul>	B
	生徒と教職員との協同健康管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の結果を生徒や教職員の健康管理に役立てる。</li> <li>1学期3者面談時に、治療勧奨書を担任が保護者へ手渡す。</li> <li>定期的に治療状況を集計し、担任・生徒へ連絡し治療を促す。</li> <li>「ほけんだより」を、生徒保健委員会活動と連携させる。</li> <li>感染症・最新情報や学校の取組(委員会活動等を含む)を、「ほけんだより」やHPで適宜公開する。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ほけんだより」を利用し定期的に治療状況等の情報提供を行うとともに、感染症流行前に、全校集会を利用し予防について啓発できた。また、教職員に対して救急救命講習会(外部講師招聘)を実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートで生徒から石鹸が泡立たないという意見が多数あり、改善が必要である。</li> </ul>	A
	生徒と教職員との協同生涯スポーツ推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事を他の分掌と連携し、実施種目の見直し等を含め、生徒が主体的に計画・実施・評価していけるよう教職員が支援していく。</li> <li>生徒の活動が生涯スポーツに繋がるよう、施設用具等の利用方法も含め教職員が支援していく。</li> <li>新体力テスト等により生徒の特徴を把握し、学校生活での健康保持・増進の方法(運動)を実践できるよう教職員が支援していく。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育的行事(昼休みの施設開放を含む)に係る生徒への支援については十分な取組ができた。ただし、体育大会の天候による実施日の変更については全日程実施の方向で取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事への準備は十分されている。体育大会・クラスマッチの運営に関する生徒意見は取り入れるべきである。</li> </ul>	A
業務改善	学校の組織等	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修等をととして網紀保持意識の高揚を図り、網紀保持に努める。</li> <li>職場の良好な人間関係づくりに努める。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝夕の挨拶を交わすことや普段からの声かけを心掛けることでお互いに話しやすい環境になっている。</li> <li>職員会議や職員朝礼時に、県からの文書やリーフレットを活用した校内研修を実施し、年間を通じて網紀保持に対する教職員の意識啓発を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに話しやすい環境であるとともに、切磋琢磨し合う職場であることも必要である。</li> </ul>	A
	網紀保持意識の高揚					
	日常的な業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌間の連携により、組織力の強化を図る。</li> <li>学校のサーバーやグループウェア等を活用した教職員間の情報共有を図り、ペーパーレス化を促進する。</li> <li>文書作成マニュアルの活用促進により、文書事務の効率化を図る。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌間の連携と情報の共有はある程度できている。</li> <li>サーバーやグループウェアは効果的に活用されているが、ペーパーレス化については充分とは言えずipad等の機器の活用を考えたい。</li> <li>文書作成マニュアルの活用促進により、文書事務の効率化を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善の取組がよくなされている。今後は、より多くの教員が実践できるよう努めてほしい。</li> </ul>	B
	分掌間の連携と情報の共有					
勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌で効率的な業務遂行に努めるとともに、業務内容の見直しを促進し、必要に応じて簡素化を図り、業務時間の改善に努める。</li> <li>職員会議の効率化及び時間短縮に努める。</li> <li>生徒や学校及び教職員の実態に応じた適切な部活動運営に努める。</li> </ul>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌毎に業務内容の見直しや簡素化がある程度図られてはいるものの、業務時間の改善にはつながっていないのが現状である。</li> <li>職員会議の開始時間を早めることや事前に資料を配付する等、会議の効率化及び時間短縮は、ある程度達成できている。</li> <li>調査期間中の部活動は基本的には実施していない。教員はノー残業デーとして定時退庁の雰囲気はできてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務時間の改善も極めて重要であるが、生徒とのあらゆる面での対話時間の確保も重要である。</li> <li>部活動の外部指導者の導入などにより、勤務時間を改善してほしい。</li> </ul>	B	
業務時間の改善						

## 6 学校評価総括(取組の成果と課題)①

### 【学校運営】

- ・各行事とも円滑に準備・運営ができた。今後とも細心の注意を払っていきたい。
- ・初めての海外研修を含め3コースでの校外研修が実施できた。今年度の経験を次年度に活かしていきたい。
- ・会長の下で役員・会員が協力して活動を推進した。
- ・PTA新聞編集委員会を7回開き、細部まで検討を重ねて新聞を発行した。
- ・SSH関係の発信が多くなった。普段の姿を発信していきたい。
- ・入学時にメール受信登録をすることで登録状況はほぼ全員登録ができている。また、緊急連絡配信を多岐に活用できないか検討をしている。
- ・まだ改善点はあるが、ブログを中心に積極的に校内外での教育活動を発信している。
- ・旭陵館(セミナーハウス)の建設も始まり、記念事業は順調に進んでいる。
- ・今後は式典等の準備に注力することになる。

### 【学習指導】

- ・平成34年度の新学習指導要領の実施に向けて、平成32年度までの教育課程完成に向けて、説明等を行っている。
- ・同時展開授業や行事の増加のため授業変更による授業時間の確保が難しい状況であったが、時間割係が授業確保のため最善の努力をした。ただし、今後は更に探究科等の行事や特別授業が増加することが見込まれ、同程度の授業変更は難しくなることが予想され、行事等の見直しや実施の工夫が必要である。
- ・中学校等の研究授業の案内をしている。業務等のため参加が難しい状況であるが、可能な範囲で参加されている。新入生に対する学習オリエンテーションは計画的に実施できた。
- ・各学年が、定期考査前などで補講を計画的に実施した。基礎学力の定着のため、考査前だけでなく小テスト等の実施等計画的な指導が必要である。
- ・学年末考査後の授業計画や3年2学期末考査後の特別編成授業について、学年と連携して円滑に実施することができた。
- ・来年度以降に向けて分掌や学年からの情報を教員が共有できるようにする。
- ・SSHの指定により、探究科の教育課程は特例措置が取れることにより、基礎探究や発展探究は2単位となった。来年度の総合的な探究の時間では普通科にも探究活動を広げていく。
- ・他の分掌や教科と連携してアイテムや教材の開発を進めることができた。
- ・進路講演会は、2回とも生徒に大変好評で、進路意識の高揚に大きく寄与した。
- ・多くの教員が積極的に研修へ参加した。他校との互見授業については、進路部としての取組が更に推進できるよう、工夫を重ねたい。
- ・それぞれの教科の特色やその時の授業の目的に応じて授業形態を選択するなど、学習の効果が上がるように取り組んだ。
- ・週末課題は教科間で量を調整できた。
- ・各教科の実情を踏まえて、早朝課外や土曜講座を実施できたと思う。
- ・例年と比べると課外受講者が総じて少ない傾向にあった。2月特別課外・特別指導に至るまで、その傾向は変わらなかった。受講者には十分な指導ができたが、受講者数を増やすための工夫が必要かもしれない。

### 【教育企画】

- ・複数の教員が協力して行う「ユニットカリキュラム」18テーマや「リレー探究」2回を実施した。
- ・探究科1年生と2年生が、それぞれ九州大学と広島大学で研修を実施し、充実した研究施設を見学した。また、企業や博物館と連携した研修も行った。
- ・「やまぐちサイエンスキャンプ」に3名「科学の甲子園山口県大会」に18名が参加した。「科学の甲子園山口県大会」は、科学部のチームが4位、探究科2年次生のチームが5位という結果だった。
- ・「SSH・探究News」を8回発行した。また、各種の取組をWEBページに掲載した。
- ・「基礎探究」は2年目の実施となり、円滑に進めることができた。昨年度との変更点は、単位数を1単位から2単位に増やし、発表のまとめやICT機器を利用したデータ処理を行った。
- ・探究科体験学習の案内を中学校に送付し、実施要項をWEBページに掲載した。
- ・アドバンスセミナーは2年目となり、円滑に実施することができた。
- ・「教科探究」や「課題研究」の次年度の計画については、各教科との調整を行った。
- ・英検などの資格試験は、年度末に実施予定であり、遺漏のないよう準備を進めている。
- ・8月に「学校説明会」、10月に「探究科体験学習」を実施した。また、在校生と中学生の交流会は、探究科の様子を直接聞くことができたので大変好評であった。

### 【生徒指導】

- ・全校集会や始業式・終業式等では、生徒会が主体的に集合状況の把握を行い、時間厳守やマナー等に対する意識向上に努めた。
- ・頭髪・服装検査や月2回の登校指導を計画通り実施し、基本的な生活習慣の向上に努めた。
- ・機会をとらえ、学校生活におけるマナーの向上を図り、HR等を通じて生徒への注意や働きかけを行った。
- ・いじめを含め「いじめのアンケート調査」を行い、担任・学年や教育相談部と連携し、未然防止・早期発見や解決に向けて学校全体で取り組んだ。
- ・予定どおり新1年生には仮入学時に保護者を含め「スマホ・ケイタイ安全教室」を実施した。また、生徒に対し、SNS等インターネットの書き込みによる問題に対して指導を行い、情報化社会における注意喚起を行った。
- ・計画どおり防災・防犯訓練を3回行い、緊急時における危機管理に対する意識の向上を図った。
- ・今年度は交通安全教室を警察署にお願いし実施した。交通事故の悲惨さや、事故を起こした時の責任についてより具体的な事例を含めた指導を行った。
- ・HRを通じて不審者情報等を生徒に連絡をし注意喚起している。また、自ら不審者に対しての危機管理の向上に努めた。
- ・概ねうまく人間関係を築き、入学当初より成長した姿が見られる。
- ・指導に慎重さが求められる生徒もいるが、関係教員との連携を密にして指導し、問題解決に努めている。
- ・授業においては、ペア学習、グループ学習等で自分の意見を述べる機会を多く取れたように思う。
- ・面談では、十分に生徒とのコミュニケーションが取れていたように思う。
- ・昼休み、放課後を問わず必要に応じて生徒と話をする機会を持っていた。
- ・それぞれの行き先でそれぞれの研修先に応じた接し方ができたとの報告を受けている。
- ・各学校行事でのリーダーシップはとれた。
- ・学年集会を持って進路指導などの話をすると、集中してよく聞く。それが志の高さに結びついていると思うが 規律ある日常生活につながっているかは確かではない。

## 6 学校評価総括(取組の成果と課題)②

### 【進路指導】

- ・面談などの個別指導は円滑に実施され、生徒の適切な目標設定の一助となっている。
- ・職場体験学習は医療系を中心に多くの生徒が参加し、好評であった。夏休みのオープンキャンパスにも多くの参加があったが、課外と重複した際には課外を優先するよう、周知徹底を図りたい。
- ・NCAは各学年とも概ね円滑に運営できたが、生徒の進路意識が更に高められるよう、教材等に工夫を重ねたい。
- ・月1回の進路だより発行や各種講話、資料配布などを通じて、適切な情報発信に努めた。
- ・進路検討会では、文理選択、科目選択、大学選択に関して、幅広く情報共有や情報交換を行うことで担任による指導の個人差を一定程度平準化することができた。
- ・過去の担任業務で活用したデータやファイルをサーバー内で共有し、有効活用することにより、業務の円滑化を図ることができた。
- ・キャリアセミナー、出前講義は例年どおり実施され、職業観の確立の一助となった。今後は新たな取組を模索したい。
- ・医療体験や大学説明会等に多くの生徒が参加し、進路意識が向上した。
- ・研修の復命は教員の多忙化もあり、十分に行われたと言いはし難い。復命のレポート化を各教員へこれまで以上に推奨したい。
- ・進路指導室は例年並の活用状況だった。引き続き活用促進策を検討したい。
- ・進路講話や講演会を充実させ、これまで以上に適性に応じた目標設定ができるようになった。
- ・進路諸行事や学年全体の取組、文理選択を主とした面談(個人・三者)等をとおして、将来の進路について意識や関心が高まってきた。
- ・各担任とも十分に時間をかけて面談を行い、適切な支援を行うことができた。
- ・まだ志望校を明確に決めることができていない生徒もいるので支援をしていく必要がある。
- ・各行事のアンケート結果は、肯定的意見がほとんどだったので、所期の目的は果たせた。
- ・規律ある生活を送る生徒達は、受験が近づいても落ち着いてしっかり学習していた。

### 【教育相談】

- ・関係教員間の情報共有や対応の連携はできた。
- ・教育相談部連絡会では、支援に資する多角的な情報分析と検討ができた。
- ・支援が必要な生徒が同時期に多数出たときには、対応がやや手薄になった。
- ・教育相談室登校の生徒のフォローの仕方を構築する必要がある。
- ・SCと当該生徒の担任または関係教員との綿密な情報共有が図られた。
- ・ケース会議に専門的な見地からの助言をいただき有意義な会議が持てた。
- ・SCを講師として教員研修会を実施し、生徒理解を深めることができた。
- ・外部講師を招き、幅広い分野にわたって人権意識を涵養できた。
- ・日常の学校生活での生徒間の人権意識が向上した。

### 【図書・情報】

- ・アンケート結果により図書を購入した。読書会における集団読書を円滑に実施できた。
- ・図書室を使い易くする計画を実行中である。
- ・成績管理システムの更新・改善は随時行っている。今年度も円滑に運用できた。
- ・活用し易いようにマニュアル等を提示・配布し、支障なく業務を支援できた。
- ・各分掌等が利用し易い環境を維持し工夫してきた。データの共有については改善の余地がある。
- ・セキュリティに付いての情報提供は適宜行い、今後も継続してセキュリティ意識の向上に取り組まなければならないと考える。

### 【健康・安全】

- ・「ほけんだより」を利用し定期的に治療状況等の情報提供を行うとともに、感染症流行前に、全校集会を利用し予防について啓発できた。また、教職員に対して救急救命講習会(外部講師招聘)を実施できた。
- ・体育的行事(昼休みの施設開放を含む)に係る生徒への支援については十分な取組ができた。ただし、体育大会の天候による実施日の変更については全日程実施の方向で取り組みたい。

### 【業務改善】

- ・職員会議や職員朝礼時に、県からの文書やリーフレットを活用した校内研修を実施し、年間を通じて綱紀保持に対する教職員の意識啓発を図った。
- ・朝夕の挨拶を交わすことや普段からの声かけを心掛けることでお互いに話しやすい環境になっている。
- ・各分掌間の連携と情報の共有はある程度できている。
- ・サーバーやグループウェアは効果的に活用されているが、ペーパーレス化については充分とは言えずipad等の機器の活用を考えたい。
- ・文書作成マニュアルの活用促進により、文書事務の効率化を図ることができた。
- ・各分掌毎に業務内容の見直しや簡素化がある程度図られてはいるものの、業務時間の改善にはつながっていないのが現状である。
- ・職員会議の開始時間を早めることや事前に資料を配付する等、会議の効率化及び時間短縮は、ある程度達成できている。
- ・考査期間中の部活は基本的には実施していない。教員はノー残業デーとして定時退庁の雰囲気はできてきた。

## 7 次年度への改善策①

### 【学校運営】

- ・行事については、各係の役割を整理・明確化し、円滑な運営につなげる。
- ・郊外研修については、本年度の反省を活かして、業者との連絡を密にし、より満足度の高い研修にする。
- ・PTA役員と連携し、保護者がよりPTA活動に参加する方策を検討する。
- ・新メール配信システムへ全員を登録し、より円滑に運用をしていく。
- ・発信情報をしっかり吟味し、発信・更新回数を増加する。
- ・百周年記念事業実行委員会、同窓会などの関係機関との情報共有を含め、連携を密にする。
- ・校内体制に基づき、記念式典の円滑な準備・運営に細心の注意を払う。

### 【学習指導】

#### (教務)

- ・授業数確保のため、年間行事やその実施方法、授業の実施、クラス編成等の見直しを各分掌と連携して改善していく。
- ・中学校から高校への滑らかな接続のため、中学生・保護者対象の学校説明会や、入学後のオリエンテーション等におけるや説明等を工夫・改善する。
- ・生徒に興味・関心を持たせるような取組だけでなく、確かな学力を定着させるための計画を立てやすく学習環境を作る。
- ・大学入試の変更を受けて、進路指導部と連携して1年生の初期指導を含め、計画的な指導に取り組む。
- ・現行システムの円滑な運用に向けて、改善等に取り組み、教員の業務負担軽減のため、分掌としてフォローする体制を整えとともに、H32導入の教務支援システムの導入に向けて円滑な移行ができるようにする。
- ・変更される生徒指導要録作成に向けて、早期に対応を考える。
- ・教育企画部と連携し、探究科やSSHでの活動を中心に、教材開発を推進する。

#### (進路)

- ・進路講演会は、予備校講師と大学の学長に講演を依頼する予定である。
- ・研修参加は継続して実施したい。互見授業は取組がやや低調なため、積極的な実施を呼びかけたい。

#### (1年)

- ・学習記録表に記入された状況を把握し、学習時間の不足や学習習慣の身に付いていない生徒は個人面談・学年等で指導する。
- ・朝学の学習習慣を継続し、基礎・基本内容ができていない場合はやり直しや反復によって定着させる。

#### (2年)

- ・授業中心の学習を継続していくとともに、早朝課外、土曜講座等の内容をよく検討し、各レベルに応じた支援を行っていきけるようにする。
- ・課題についても各教科で調整し、負担が大きくなるようにしていく。

#### (3年)

- ・あくまでも授業が中心であること、その充実を図ることが基本である。そのためにも引き続き朝学にきちんと取り組ませなければならない。
- ・個別添削指導は効果が大きいので、できるだけ多くの生徒の学力を伸ばすよう補助する。

### 【教育企画】

- ・探究科における教育活動が、課題解決力をより一層育むものとなるよう、SSH事業と関連を図りながら改善する。また、改善に当たっては、各分掌・教科と連携を取りながら、生徒の負担などにも配慮する。
- ・SSHの研究開発課題である「生徒に科学的課題構想力を育む」ため、「基礎探究」や「発展探究」の年間指導計画を改善する。
- ・来年度から始まる「教科探究」や「課題研究」については、今年度作成したの年間指導計画に基づいて実践する。
- ・SSH事業においては、アジア立命館太平洋大学等と新たに連携した取組を始めるなど、事業推進に向けた連携先を開拓する。
- ・「やまぐちサイエンスキャンプ」や「科学の甲子園山口県大会」の参加者については、生徒が積極的に参加するよう、引き続き周知に努める。
- ・定期的に「SSH・探究News」を作成し配布するとともに、本校ウェブページでの周知に努める。
- ・「基礎探究」や「発展探究」の円滑な実施に努めるとともに、「教科探究」や「課題研究」については、担当者と連携を取りながら、実践を進める。
- ・中学校に体験学習の実施について周知に努めるとともに、内容の充実を図る。
- ・アドバンスセミナーの内容の充実を図るとともに、生徒が負担する経費を節減するため、依頼する業者を見直す。
- ・新テストを見据えGTECや実用英語検定の受験を推進する。
- ・学校説明会で、探究科の特色を中学校の生徒や保護者、教員に周知する。
- ・本校の取組をより一層周知するため、学校訪問などを積極的に受け入れる。

### 【生徒指導】

- ・頭髪・服装検査が形骸化せず、各学年との協力の下、共通理解を図り実施する。登校指導では教員から積極的に声をかけ、マナーの向上についても機会をとらえ全教員が指導する体制を作る。

- ・いじめに関しては、未然防止・早期発見について学年・教育相談との連携を密に図るとともに、平素から生徒の活動に注意を払い、積極的にコミュニケーションを図る。また、携帯やスマホによる目に見えないいじめ等については、日頃から規範意識の向上を図る指導をする。

- ・防犯・防災訓練等を実施し、安心して学校生活に取り組めるようにする。不審者に対しては、下関地区高等学校等生徒指導連絡協議会との連携を図り、生徒へ情報発信するとともに、自己防衛能力の向上に努める。

#### (1年)

- ・学校行事等の特に役割分担や準備の段階から学年や正・副担任が生徒に関わり、生徒がより成長できるようにする。
- ・学年や正・副担任が教育相談部や関係教員と密に連携を取り、問題点に対して早期の対応をして解決を図る。

#### (2年)

- ・課題研究や発展探究など、生徒がグループで活動する場面が増えてきているが、そういう機会を利用して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
- ・授業においても、アクティブラーニングなど、グループ活動や、発表の機会が増えてきており、同様にコミュニケーション能力の育成を図っていく。

#### (3年)

- ・最上級生として、学校行事はもちろん、日常生活においても下級生を引っ張っていける集団づくりを目指す。そのために、SHRやLHRの時間を活用したり、学年集会を開くなどして、リーダーシップの養成、コミュニケーション力の醸成を図る。



## 7 次年度への改善策②

### 【進路指導】

- ・面談などの個別指導、校外学習への参加、進路情報発信については概ね順調であり、引き続き継続を図りたい。
  - ・各個人の目標よりも一段上の進路実現が図れるよう、難関大・医学部医学科志望者向け講話の拡充や、難関大向け課外講座開講へ積極的に取り組みたい。
  - ・NCA(総合的な学習の時間)は、課題研究や小論文講座の拡充などをおして、生徒の表現力や思考力が高まるよう努めたい。
  - ・それぞれの取組は概ね順調に行われているが、入試方法の多様化や大学入学共通テストの実施等を踏まえ、一人ひとりの進路希望に応じた指導ができるよう、学年団との連携をより緊密にしたい。
  - ・過去の進路関連業務で蓄積されたデータは紙ベースの資料が多いため、PDF等に保存しなおすことで、業務の円滑な引継ぎを図りたい。
  - ・教員の資質向上のための研修は引き続き継続するが、復命をレポートにまとめたり、職員会議等で復伝することで、教員間での情報共有徹底を図りたい。
  - ・個々の思考力、判断力、表現力の育成が、将来の自分や社会にとってどのようなメリットをもたらすかを明確に意識付けることを主眼に置いた指導を行いたい。
- (1年)
- ・面談シート記入等によって志望校をより明確にし、その時点でやるべきことや先々のことを確認する。また、学年終礼・個人面談・進路諸行事・NCA等を通じて進路意識を高める。
- (2年)
- ・面談などの個別指導において、各生徒に応じた進路指導をしていくために、家庭での学習時間の記録等をもっと活用していけるようにする。
  - ・模試の後の復習を義務化するなど自分の弱点補強に努める指導を充実させる。
  - ・2年生をどう過ごすかが、進路実現に大きな影響を与えるということを、しっかり生徒に認識させる。
- (3年)
- ・定期的な面談を実施することで、生徒の目標、意欲をくみ取り、1年を見通した取組への適切なアドバイスをする。
  - ・生徒が取捨選択しながら自主的に学習に取り組めるよう、進路指導部と協力して早朝課外・土曜講座・添削指導などのアイテムを、各学力層に応じて用意していく。

### 【教育相談】

- ・支援が必要な生徒を早期発見するために、定期的に学年と会合を持ちたい。
- ・教育相談室で過ごす生徒の様子を、きめ細かく見守るための方策を考えたい。
- ・生徒実態調査などを活用して、学校不適応傾向を抱える生徒を割り出し、面談をして状況把握をしたい。
- ・支援が必要な生徒をどのようにしてSCにつなぐか多角的な工夫が必要である。
- ・生徒本人はもとより保護者への支援が重要な場合も多いので保護者との面談を積極的に進めていきたい。
- ・今まで以上により広範で現代的な人権課題に取り組むたい。
- ・人権意識が向上していることを数値的に表し検証する方法を考えたい。

### 【図書・情報】

- ・読書会の形を多様化し、参加者の裾野を広げるアイデアを出していく。
- ・現成績管理システムから新システムへの円滑に移行していく。
- ・情報セキュリティ意識の向上に向けた情報提供と随時必要な研修会等を行う。

### 【健康・安全】

- ・日々のHR活動や委員会活動・学校行事を通じて、安全・衛生意識の定着の向上を図る。
- ・清掃活動については、H28度から取り組んでいる全校一斉掃除を継続実施する。
- ・「割れ窓の理論」や「整理・整頓」の意味など、掃除の効力(意識付け)を学校全体に広げ積極的に清掃活動に励む雰囲気づくりを行う。
- ・感染予防対策での汚染物専用ボックスの利用マナーを継続指導する。
- ・健康診断結果の有効活用については、継続実施する。
- ・「ほけんだより」などの刊行物に併せ、生徒保健委員会活動の広報活動を充実させる。
- ・救急救命講習については、毎年実施する。(生徒は、1年次教科「保健」において全員受講。教職員は、最低2年に1度要受講。)
- ・協同推進体制の柱である体育大会運営に引き続き取り組む。
- ・校内施設開放については限られた設備・予算であるが、それらの有効活用を目指す。
- ・引き続き学校保健委員会などを通じ、生徒の健康状態や体力特性を保護者にも示し、改善・協力を仰ぐ。

### 【業務改善】

- ・今年度からスタートした学校運営協議会を年3回開催する。本校の取組や状況について情報共有し、諸課題について指導助言を受ける。
- ・教職員間での挨拶や積極的な声掛けを行い、職場の良好な雰囲気づくりに努める。
- ・校内研修等をおして、綱紀保持意識の高揚を図りながら、各業務を実施する。
- ・担任と副担任、顧問と副顧問で常に情報交換をするなど、連携を密にしておく。役割分担を明確にし、協働的に運営していく。また、部活動支援員などの外部の指導員を積極的に活用していく。
- ・各分掌の仕事について、誰が担当してもわかるように資料や電子ファイルの整理を心掛け、次にスムーズに実施できるようにしておく。
- ・個人面談等を通じて、一人ひとりの教職員に対して、適度な休養や心身のリフレッシュを呼びかける。
- ・考査期間中のノー残業デーとして早く帰られるような雰囲気を作り、積極的に実践していく。また、代休が取得できるように、各担当で工夫していく。